

## 第8回学長会見資料7

### 神戸大学で初めて品種育成されたバレイショ「はりまる」

石井尊生・農学研究科附属食資源教育研究センター長

電話番号：078-803-5825

メールアドレス：[tishii@kobe-u.ac.jp](mailto:tishii@kobe-u.ac.jp)

農学研究科附属食資源教育研究センター（兵庫県加西市）では、神戸大学における初めての品種作出に向けて、2007年からバレイショの品種改良に取り組み、2012年に「はりまる」を育成した。現在は品種登録の出願中であるが、このたび商標登録が完了し、「はりまる」の本格的な普及を目指すこととなった。なお、品種名「はりまる」の命名には、当センター所在地である播磨地域の特産品として普及してほしいとの願いが込められている。

関西地方で広く流通しているバレイショ品種の「メイクイン」は、イモの緑化が起りやすい、二次成長（イモが変形）しやすい、疫病に弱いなど、生産者にとっては作りにくい品種であるが、料理の際に煮崩れしにくい特徴を持つため消費者には好まれている。「はりまる」は「メイクイン」と同様に煮崩れしにくいイモであるが、消費者だけでなく生産者にとっても好まれる品種を目指し、晩生で疫病にかかりにくいこと、二次成長しにくいことなど、「メイクイン」での問題点の改善を行った品種である。

現在は播磨地域での普及に向けて、現地の農家に「はりまる」の試験栽培を依頼しており、収量や品質などについて地域適応性の確認を行っている。また、慣行栽培だけでなく、減農薬や有機栽培などの農家のニーズにあった栽培技術の確立をめざし、栽培試験も行っている。

今後は、姫路を中心とする播磨地域の食料品店や小売店での「はりまる」の販売なども視野に入れて、普及活動を行っていく予定である。

#### 新規性

- ・神戸大学初となる作物品種を育成したこと
- ・センター所在地である播磨地域の特産品を目指した取り組みであること
- ・これまで国や県の試験場を中心に行われてきたバレイショ育種を大学が始めたこと

